

第9回 雄物川大規模氾濫時の減災対策協議会（令和2年7月20日開催）

令和元年度取組結果及び令和2年度取組計画、要配慮者利用施設避難確保計画作成状況及び洪水ハザードマップ周知状況、防災教育の取組状況、雄物川の減災に係る取組方針、避難所における新型コロナウイルス感染症への対応状況等についてweb会議方式にて情報共有を図った。

- 規約改定として、幹事会委員の変更（東成瀬村 民生課長より総務課長）について了承を得た。
- 協議会委員20名の参加のもと、各機関における令和2年度取組計画、要配慮者利用施設避難確保計画作成状況及び洪水ハザードマップ周知等について情報共有を図り、今後も引き続き取組を推進することを確認した。
- 各自治体より雄物川の減災に係る今後の取り組み予定について、積極的に推進することをご報告いただいた。

開催日：令和2年7月20日（月）
会場：web会議システム
委員構成：秋田市長※

秋田県

横手市長
湯沢市長
大仙市長
仙北市長
美郷町長※
羽後町長※
東成瀬村長※

気象庁

東北電力(株)
国土交通省

※代理出席

総務部 危機管理監※
建設部長※
秋田地域振興局長
仙北地域振興局長
平鹿地域振興局長
雄勝地域振興局長※
秋田地方気象台長
秋田発電技術センター所長
秋田河川国道事務所長※
成瀬ダム工事事務所長
玉川ダム管理所長
湯沢河川国道事務所長



協議会の開催状況(web会議)

主な発言内容（発言順）

●雄物川の減災に係る今後の取り組みについて

■湯沢市長

情報共有という点で大変参考になった。ただ、心配されるのは線状降水帯の発生で甚大な被害が発生している。そうした事も想定し、情報を瞬時に共有しながらの迅速な対応が必要で、防災対策、水防対策を痛感した。また、防災行政無線の整備を進めており、来年3月から稼働させ、集中豪雨が来る前に情報発信して、早く対応していけるようにしたい。また、施設の垂直避難が中々うまくいかない。何とか犠牲者を出さないよう、訓練をしていかなければと思う。



湯沢市長



大仙市長

■大仙市長

流域治水プロジェクトについて大変期待をしている。大仙市の大曲地区は市街地全てで洪水被害が発生してしまう。そうしたところは広域避難を検討せざるを得ない地域であり、近隣の市町へ避難させていただくことを検討している。もう一つは、田んぼダムですが、これは上流域の取組によって下流域の浸水被害を軽減するもので、上流地域の市町村の協力をいただく必要がある。こうした点でも広域的な、流域治水という事が大事だと思う。複数の関係機関が協力して、ダムや築堤、調整池、遊水地、ポンプ排水、田んぼダムなどを通じ、上流、中流、下流のそれぞれの実状に合わせた効果的な対策を講じることで、全県的な規模で水害リスクを軽減出来ると考えており、積極的にこの流域治水プロジェクトに取り組んで参りたい。

■仙北市長

仙北市は川上に位置しているので、川上でしっかりと対応するという事が川下に対する責任の取り方かと思う。特に田んぼダムについては大変興味を持って捉えている。実態として、田んぼダムとしての機能を果たすために、水の入れ方、田んぼに対してもダメージがなく、また治水効果を効果的に上げる事が出来るのか検討したいと思います。どうか様々な知見をお寄せいただければ有り難い。



仙北市長